

## 序 文

本報告書は、2006年度に行なわれた日本陸上競技連盟科学委員会の活動の一部をまとめたものである。名称が「陸上競技研究紀要」となった第3号である。本委員会の今年度の活動は、バイオメカニクス研究サポートを中心に行なわれたが、3年目に入ったインターハイ入賞者を対象にした実態調査、北海道マラソンにおける生理学的調査を行なった。また、合宿に帯同してのジュニアアスリートに関する調査を行なっているが、下肢のアラインメント計測には成果の予兆がみられるようになった。

本年度の報告書に掲載された報告論文は10編で昨年よりも少ないが、これは本委員会の活動が昨年よりも活発でなかったことを意味するものではなく、競技力向上へのサポートは、国立スポーツ科学センターなどの国内外での合宿への帯同による活動も年々活発に行なわれるようになった。このことは、本委員会の成果がコーチングの現場で利用され始めていることを示すものと思われる。

最後になったが、科学委員会の活動に多大なご協力をいただいた関係各位に深く感謝申し上げる次第です。

科学委員会委員長

阿江通良

2007年5月

## 平成 18 年度 科学委員会メンバー

阿江 通良 筑波大学体育科学系  
松尾 彰文 国立スポーツ科学センター  
杉田 正明 三重大学教育学部保健体育科  
持田 尚 (財)横浜市スポーツ振興事業団スポーツ医科学センター  
榎本 靖士 京都教育大学教育学部  
伊藤 章 大阪体育大学  
深代 千之 東京大学大学院生命環境科学系  
田中 宏暁 福岡大学スポーツ科学部運動生理学研究室  
鳥居 俊 早稲田大学スポーツ科学部スポーツ医科学科  
飯干 明 鹿児島大学教育学部  
井本 岳秋 静岡県総合健康センター  
石島まり子 マダム石島株式会社  
杉浦 克己 明治製菓株式会社 ザバス スポーツ&ニュートリション・ラボ  
若山 章信 東京女子体育大学  
石井好二郎 北海道大学大学院教育学研究科  
加藤 謙一 宇都宮大学教育学部  
林 忠男 日本体育大学・情報処理研究室  
高松 潤二 国立スポーツ科学センター  
広川龍太郎 東海大学体育学部  
田内 健二 国立スポーツ科学センター  
高井 和夫 文教大学  
山崎 史恵 新潟医療福祉大学  
法元 康二 青森県スポーツ科学センター

日本陸連科学委員会研究報告 第6巻 (2007)  
陸上競技の医科学サポート研究 REPORT2006 目次

レーザー方式による100mおよびハードルのスピード分析	59
松尾彰文, 広川龍太郎, 杉田正明, 阿江通良	
セイコースーパー陸上2006ヨコハマにおける400m走競技者の疾走スピード変化について - 11区間平均疾走スピードの変化から -	65
持田尚, 杉田正明, 広川龍太郎, 高野進, 川本和久, 柳谷登志雄, 松尾彰文, 阿江通良	
800mレースにおける走スピードとレース後の血中乳酸濃度との関係	70
榎本靖士, 門野洋介	
2006年度国内主要競技会における中距離走種目のレース分析	73
門野洋介, 榎本靖士, 杉田正明, 阿江通良	
2006年北海道マラソン大会の上位入賞選手の血液性状とマラソンパフォーマンス	86
井本岳秋, 石井好二郎, 鳥居俊	
日本一流400mハードル選手のレースパターン分析	93
森丘保典, 山崎一彦, 榎本靖士, 田内健二, 杉田正明, 阿江通良	
醍醐選手(走高跳)の日本新記録跳躍フォームの分析	98
阿江通良, 武田理, 小山宏之	
競技会における一流男女棒高跳, 走幅跳および三段跳選手の助走速度分析	104
小山宏之, 村木有也, 武田理, 大島雄治, 阿江通良	
記録水準の異なる男子棒高跳選手の跳躍動作に関するバイオメカニクスの分析	123
武田理, 小山宏之, 村木有也, 吉原礼, 阿江通良	
日本一流男子円盤投げ選手の技術分析 - 円盤速度に対する身体各部位の貢献について -	127
田内健二, 持田尚, 村上雅俊, 阿江通良	